

三
半
組

願
書

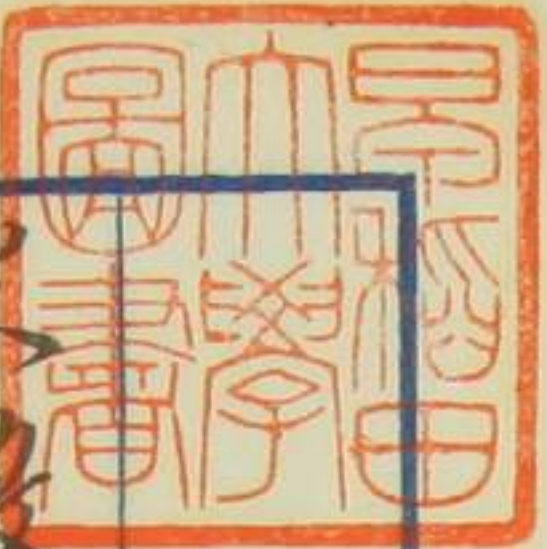
2606



114
A 3424

忠恕の書附を願上候

米穀の美を御國第一の生産として價格の巨多
たると之に超るとの無きは政府の収入の一基を以て人
民の生活の一是に據り至貴なる重なるもの物中
に價格高上るとするは人民に困苦を以て方任下る
るは政府の経済に大に關係するは故に常に其
中西の平均を失くるとは豫言するも其に事成るは
必奉玉考は殆ど方今に多税を於て中西に



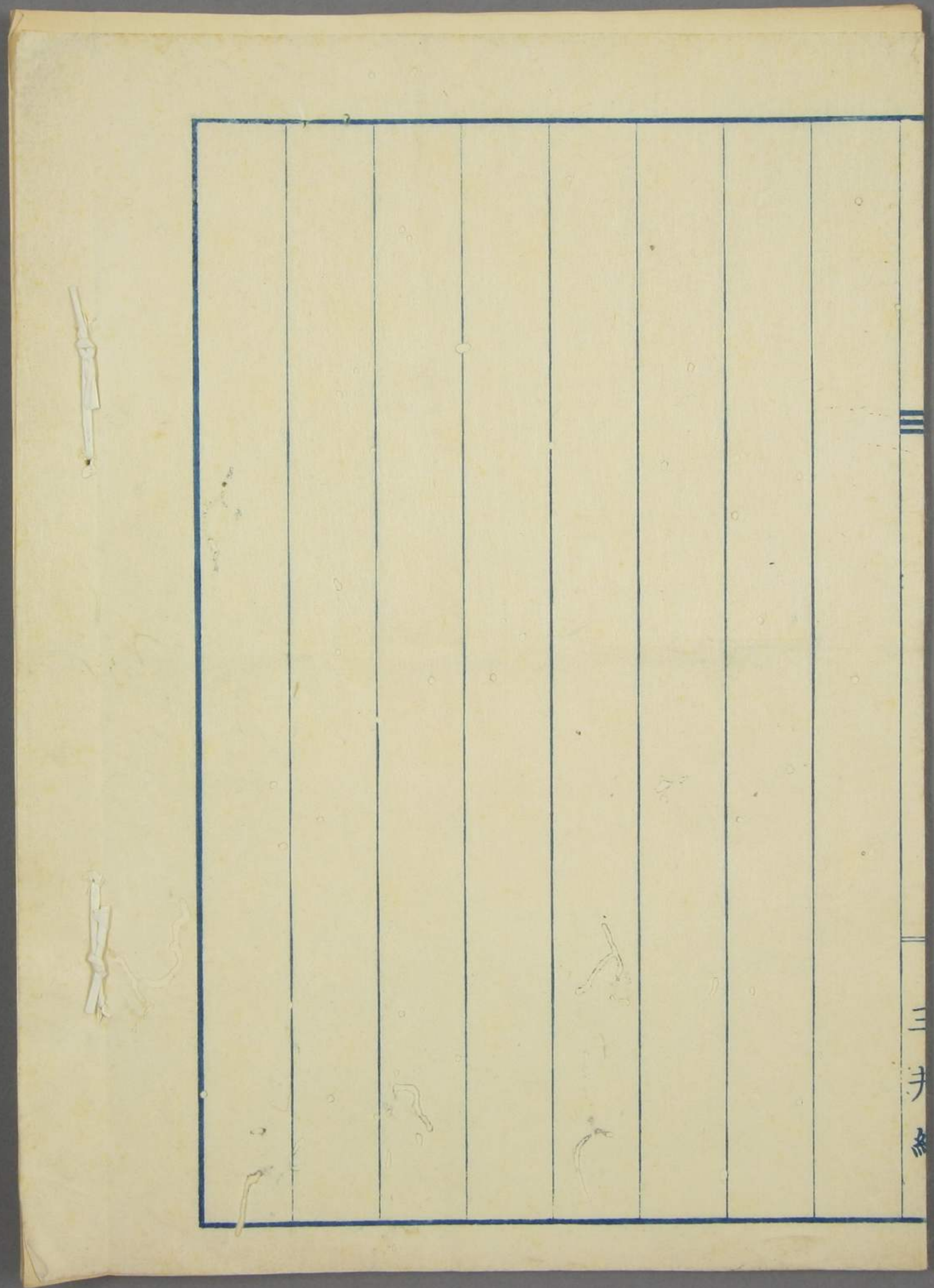
大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

三井

三井

平均を失くると民頗る困窮情態も亦有事
由第一昨年一國内一般豊熟多収穀付
物多量に價賤きと爲り若第二に近來資本
流通も過格なる積蓄の交り僻遠地方
米穀を買入都會運搬も亦若重く云々
第三に御國の過割も米穀を以て之を海に輸
出し價格伸漲の爲言と云々此等資力を有する
者更に云々右等も亦云々云々遠隔の地方

如き其人民空乏多数米穀を懐て之を糶糶前
に能くは却ら貢納若しは都府互
市場に於て益を以て資本の流通漲落の
今も此弊源を救いし其甚く憂結菓
に之を裁き爲す之を救う御政府の
其依頼の一應を以て素も米穀價格
の暴落を賣買上下の生計も亦人民一般に見
込任せ各自も買取りも之も成り政治上を



三
并
終